

産業遺産国際会議のご案内

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」につきましては、来年夏の世界文化遺産登録を目指して、これまで10年がかりで、国や関係自治体等と連携しながら取り組んでいます。

世界文化遺産に登録されることにより、地域の貴重な遺産や文化財を保護し、後世につないでいこうとする意識が高まり、地域の方々が自分たちの郷土の歴史や文化に誇りと関心を持つ貴重な契機となり、地域全体として、世界遺産登録にふさわしい「まちづくり」への機運が醸成されるといったことも期待されます。さらに、国内外からの観光客の増加が見込まれるなどの経済効果も期待されます。

つきましては、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界文化遺産登録に向けた気運醸成として、産業遺産国際会議を下記のとおり開催します。ご多忙中誠に恐縮ですが、レセプション等へご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

全体プログラム

- 1 日 時 平成26年7月14日（月）～15日（火）

月日	時間	内容	会費
7月14日（月）	10:00～12:00	① 開会式、基調講演	無料
	13:30～17:45	② セッション（1日目4分科会）	10,000円（※）
	18:30～20:30	③ レセプション	6,000円
7月15日（火）	10:00～17:20	① セッション（2日目4分科会）	10,000円（※）

（※）セッションは2日間を通した金額です。

- 2 場 所 ホテルオークラ東京（東京都港区虎ノ門2-10-4 TEL. 03-3582-0111）

レセプションについて

- 日 時 平成26年7月14日（月）18:30～20:30
- 場 所 ホテルオークラ東京 1階 平安の間
- 会 費 お一人様 6,000円
- 主な出席予定者
政府関係者、国会議員、国内外学識経験者、文化著名人、民間企業代表、県人会等関係者、関係自治体首長（鹿児島県知事も出席予定）

※ 参考

開会式・基調講演、セッションにも参加することができます。
（別紙「産業遺産国際会議のリーフレット」をご参照ください。）

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」について

1 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」について

旧集成館機械工場（現在の尚古集成館本館：鹿児島市）などを含む「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」は、2013年9月にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）への世界文化遺産政府推薦案件として決定され、2014年1月末に国からユネスコ世界遺産センターへ推薦書正式版が提出されました。

県では、2015年の世界文化遺産登録実現に向けて、全力で取り組んでいきます。

(1) 本遺産群の資産の範囲

19世紀後半より20世紀初頭にかけて、日本国は僅か約半世紀で産業国家に変貌した。推薦資産は明治期の重工業（造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業）における急速な産業化の道程を時間軸に沿って証言する産業遺産群（現役産業施設を含む）により構成されている。推薦資産を構成する資産は九州・山口地区を中心に、全国8県11市に立地し、地理的に分散をしているが、群として資産全体で世界遺産価値を有し、一つの範囲を構成している（いわゆるシリアルノミネーションとして登録を目指す）。

(2) 世界史的意義

重工業（造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業）は、日本経済の屋台骨を支える基幹産業である。幕末から明治後期にかけて、日本は工業立国の経済的基盤を築き、急速な産業化を果たした。20世紀初頭には、非西洋地域の中で、他に先駆けて、産業国家としての地位を確立した。アメリカ軍東インド艦隊の江戸湾来航以降、徳川幕府が開国の方針に改めた後、僅か約半世紀で、西洋の技術と伝統的な日本文化が融合し、重工業の急速な産業化を進め、産業国家の礎を築いたことは、技術、産業、社会経済に関わる世界の歴史的発展段階において、歴史的価値、技術的価値、文化的価値の極めて高い、特筆すべき類稀な事象である。

(3) 構成資産

本産業革命遺産は、8エリア、11サイト、23資産で構成される。

●鹿児島県内の構成資産



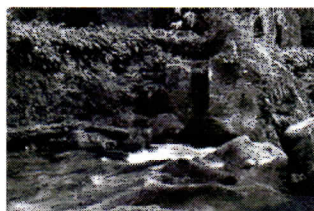
旧集成館



旧集成館機械工場



旧鹿児島紡績所技師館



関吉の疎水溝



寺山炭窯跡

2 推進体制

関係地方公共団体の連携のもとに、世界遺産への登録を推進するため、平成20年10月29日、関係6県11市により鹿児島県知事を会長とする世界遺産登録推進協議会を設置した。(現在は、8県11市体制)

また、登録に必要な専門的な調査研究を行うため、海外専門家として、ニール・コソノ卿(元イングリッシュヘリテージ総裁)ほか8名、国内専門家として、西村幸夫氏(東京大学先端科学技術研究センター所長)ほか6名、計16名からなる専門家委員会を協議会に設置した。

※ 「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会

福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県、北九州市、大牟田市、中間市、佐賀市、長崎市、荒尾市、宇城市、鹿児島市、萩市、釜石市、伊豆の国市

3 主な取組経緯

- ・平成17年7月 鹿児島県主催で「九州近代化産業遺産シンポジウム」を開催し、「かごしま宣言」を取りまとめ
- ・平成18年6月 九州地方知事会における政策連合項目として、「九州近代化産業遺産の保存・活用」が決定し、関係県での取組へ発展
- ・平成20年9月 文化庁において世界遺産暫定一覧表への追加記載決定
- ・平成20年10月 関係自治体による世界遺産登録推進協議会を設置
- ・平成21年1月 ユネスコの世界遺産暫定一覧表へ追加記載
- ・平成24年5月 「稼働中の産業遺産又はこれを含む産業遺産群を世界遺産登録に向けて推薦する場合の取扱い等について」閣議決定
- ・平成25年4月 国へ推薦書原案等を提出
- 8月 「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」(事務局：内閣官房)において、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」を推薦候補として選定(8/27)
- 9月 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」を今年度のユネスコへの世界文化遺産政府推薦案件として決定(9/17)
- 世界遺産条約関係省庁連絡会議(事務局：外務省)において、推薦書(暫定版)の提出を決定(9/20)
- ユネスコへ推薦書(暫定版)を提出(9/27)
- ・平成26年1月 推薦書(正式版)をユネスコへ提出することを閣議了解(1/17)
- ユネスコへ推薦書(正式版)を提出(1月末)
- 6月 カタールで世界遺産委員会を開催(6/15~25)
- 7月 産業遺産に係る国際会議(仮称)を開催(7/14~15)
- 平成26年度 ユネスコへの諮問機関であるイコモスによる審査(現地調査は夏~秋)
- イタリア(フィレンツェ)でイコモス総会を開催(秋~)
- ・平成27年度 世界遺産委員会で登録の可否について審議(夏)